

# かけはし

| 広 | 報 | 誌 |

KAKEHASHI

HIMI



患者さんと病院と  
地域をつなぐ広報誌

## TOPICS ● トピックス

# 新年のご挨拶



KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY  
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL

十二町潟水郷公園のオオハクチョウ

## CONTENTS ● もくじ

TOPICS	新年のご挨拶	P.01
	日本医療機能評価機構認定病院	P.02
	第3回院内感染対策講習会	P.03
	健康づくり教室	P.04
	石神先生の診察室から	P.05
	診療コラム	P.06
	病院★ニュース	P.07
	病院からのお知らせ掲示板	P.07
	まちかど情報	P.09

### 病院の理念

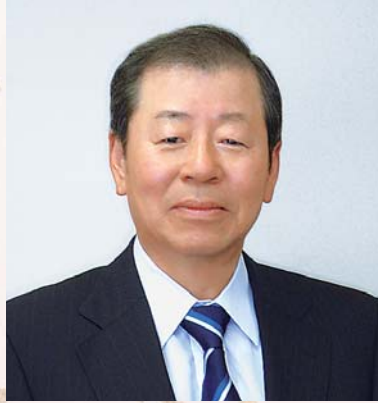
私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として  
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。

# 新年のご挨拶

最高経営責任者（CEO）

高島 茂樹



病院長

齋藤 人志



## 明

けましておめでとうございませう。元旦には多少雪が降りましたが、皆様方には穏やかな中で新年を迎えられたのではないかと思います。1年の計は元旦にあり、ということですが、皆さんにはそれぞれ今年1年の目標や計画などを立てられていることと思いますが、病院は金沢医科大学が指定管理者になって今年で8年目を迎えます。管理運営を担当するようになってあつという間に7年間で経過しました。医療の現場では昨年4月から消費税が8%にアップし、さらに厚労省の政策で急性期病床の大幅削減を目的に健康保険制度が大きく変わったことにより病院の経営環境は非常に厳しい状況となっております。昨年の病院の主な行事を振り返りますと、高島前病院長（現、氷見市民病院最高経営責任者）が3月に第61回富山新聞文化賞を受賞されたこと、私が4月から新病院長に就任したこと、昨年9月に（財）日本病院機能評価機構の審査を受け、12月に当院の診療機能が一定レベル以上であると評

## 平

価され「認定」されたこと、「第2回健康づくり教室」、「第3回夏休み親子ふれあい医療フェスティバル」、「第7回地域医療懇談会」、地域の中学生を対象にした職場体験である「14歳の挑戦」、日米友好の木である「ハナミズキ」植樹式など多くの行事を行いました。成27年を迎えて、今後の病院の診療姿勢としては、病院スタッフがが丸となって患者さんに優しい気配りの出来る病院づくりに励むことが基本ですが、なんとと言っても「患者さんの権利を考慮した患者さん中心の医療を提供すること」、「安全で安心なチーム医療を提供できるように心がけること」、「地域医療の中心となること」、「人の気持ちを思いやり全人的医療の提供に心がけること」、「職員同士もお互いに思いやる気持ちを忘れずに接することが出来る病院」などが私の目指しているところの病院像であり、これを実現するために努力したいと思えます。また、ますます充実した医療を地域の皆さん方に提供できるように、病院の中期事業計画とし

## 今

て、まず「がんセンター」建設計画があります。新規に建物を増築し、PET-CTの導入や、併せて、がん治療の設備を備えた放射線診断・治療施設を設置したいと考えております。年の春には、北陸新幹線の開業や能越自動車道路の氷見〜七尾市間が開通します。これによって能登方面から当院に訪れる患者が増加することが想定され、今後は氷見市はもとより能登各地域の医療機関や医師会との連携をさらに緊密にした診療体制を構築する必要があるものと考えています。病院が選ばれる時代が来ており地域における中核病院として、地域に貢献できる病院づくりに取り組んでいきたいと考えておりますので、皆様方の一層のご支援、ご協力をお願いいたします。皆さんの今年1年の健康とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



日本医療機能評価機構

## 「病院機能評価認定病院」となりました

「認定病院は、より良い病院作りを目指して成長し続ける病院です」



齋藤病院長と福田機能評価委員長

金沢医科大学氷見市民病院は、平成26年9月に公益財団法人日本医療機能評価機構により行われた審査によって同機構が定める認定基準を達成していると認められ、認定証の交付を受けました。

当院では、約2年前の平成24年10月のキックオフ大会を皮切りに、病院機能評価受審の体制を整え、その後、委員会を立上げ、長期間に渡り職員が一丸となって業務改善・受審に向けた準備を継続的に行ってまいりました。

評価機構の定める評価項目は第1か

ら第4領域まで「患者さんの意思を尊重した医療」「地域との連携」「医療の質と安全の確保・感染制御に向けた取り組み」「質改善の取り組み」「療養環境の整備と利便性」「チーム医療による診療・ケアの実践」「良質な医療を提供するための各部門の機能」「組織運営・管理・労務・教育・経理・施設設備・危機管理」など広範囲に亘ります。

審査は、事前提出した書類審査と、訪問審査の2段階調査で行われ、訪問審査当日はサーベイヤー（評価調査者）6名が来院され、まず始めにミニユア



審査風景

ル類、諸記録などの書類確認、病院長を始めとする役職者に対する面接調査が行われ、その後、各病棟で患者さんのケアプロセス（外来・入院・退院における経過）の調査が行われました。また二日目は、各部門など医療現場を直接訪れ、診療運用に関する様々な現場確認に基づく審査が行われました。

審査の結果、一定の水準を満たしていると認められ「認定病院」となりました。すなわち地域に根差し、安心安全、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、常日頃努力してい



講評風景

る病院と認定されました。

今後もより良い病院づくりを目指し病院運営の基本方針に定める「患者さん中心の病院運営」や、「安全で信頼される医療の提供」を実践するため、職員一丸となり更なる医療の質の向上に努めてまいります。

## 【病院機能評価とは】

病院機能評価は、第三者（公益財団法人日本医療機能評価機構）が中立・公平な立場から患者さんが安心して適切な医療を受けることができるよう病院の質を向上させることを目的に審査するもので、全国の約3割の病院が認定を受けています。

認定期間：2014年12月5日～

2019年12月4日（5年間）

認定番号：認定第JC1994号

主たる機能：一般病院2

機能種別版評価項目3rdG:Ver.1.0



## 平成26年度第3回院内感染対策講習会

# エボラ出血熱・デング熱 知っていますか？

### 話題の感染症と感染対策 エボラ出血熱・デング熱など

平成26年12月25日(木)、当院の6階多目的ホールにおいて、北里大学・大学院感染制御科学府感染症学研究室 高橋孝教授を講師に招き、「話題の感染症と感染対策」エボラ出血熱・デング熱など」と題し、院内感染対策講習会が開催されました。



エボラ出血熱やデング熱は、日本では医療従事者でもなじみの薄い感染症であり、これらの感染症に対する知識を氷見市地域全体で共有するため、当院職員をはじめ、高岡厚生センター氷見支所、氷見市消防署、中村記念病院からも参加があり計160名が受講しました。エボラ出血熱はテレビなどでも報道されており、法律で届け出を義務付け

られている感染症法の一類感染症です。第1例目の症例(1976年)の出身地付近にエボラ川が流れることから、病原体をエボラウイルス、疾患をエボラ出血熱と命名されました。2014年の流行地域は西アフリカ3か国(ギニア、リベリア、シエラレオネ)が主です。出血熱という名前から症状は吐血・下血と思いがちですが、初期症状は発熱、倦怠感、嘔吐、下痢などで、重症化すると粘膜出血、歯肉出血、吐血、下血などの出血症状が出現します。潜伏期間は通常7〜10日程度。感染経路は①エボラウイルスに感染した動物・ヒトの体液に傷口や粘膜が接触してウイルスが侵入する、②症状が出ている患者の体液



(血液・分泌物・吐物・排泄物など)や、体液に汚染された物質(シーツ・衣類・医療器具、患者が使用した生活用品など)に傷口や粘膜が触れて感染するなどの「接触感染」であると言われていています。「接触感染」を防止するため、手袋、マスク、ゴーグル、ガウンなどを着用しケアを行い、正しい脱ぎ方で医療者に汚染がつかないようにすることが重要です。

金沢医科大学・氷見市民病院  
院内感染対策講習会  
〈2014年12月25日〉  
**話題の感染症と感染対策**  
**「エボラ出血熱・デング熱など」**  
北里大学・大学院感染制御科学府  
感染症学研究室  
高橋 孝

次にデング熱ですが感染症法の四類感染症です。日本国内では今年、代々木公園で160人余りの人々が蚊に刺され発症したと報告されました。蚊の種類はネッタイシマカやヒトスジシマカで、刺されて感染しても症状が出現するのは2〜5割です。症状は突然の発

◆エボラ出血熱◆

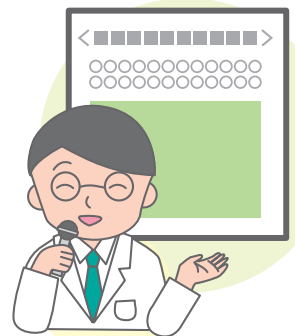
西アフリカ3か国(ギニア、リベリア、シエラレオネ)に渡航歴があり、発熱がある場合は、最寄りの厚生センター(保健所)に連絡しましょう。

熱(38℃以上)、急激な血小板減少で、随伴症状として発疹、悪心嘔吐、骨関節痛・筋肉痛、頭痛、白血球減少などが現れます。治療には特效薬はなく、輸液などの対処療法となります。予防対策は「蚊に刺されないこと」。公園などに行く時は虫よけ対策を行い、刺されるのを防ぎましょう。また、デング熱は患者の血を吸った蚊がほかの人を刺して伝播していきますので、病室への蚊の侵入を防ぐことが必要であることなどのお話がありました。

また、今年度から特定年齢の高齢者を対象に肺炎球菌ワクチンの公費助成が開始されたことも取り上げられ、ワクチン接種することで肺炎の発生の低下や重症化を抑えることが期待されていると説明されました。

見たこともない感染症で多くの不安がありました。この講演会で知識を深めること、感染対策について理解し、いつこのような症状や渡航歴のある患者が来院するかもしれないので、対策を立てるに当たりとても参考になった講演会でした。

健康づくり教室



- 延受講者総数 585名
- 終了証授与者 82名  
(6回中4回以上受講された方)
- 1回平均受講者数 97.5名



第4回  
のどに異常を感じたら

平成26年9月20日(土)、耳鼻咽喉科診療科長・准教授 松野栄雄先生が「のどに異常を感じたら」咽喉・喉頭がんの早期発見について」と題して講義を行いました。咽喉がん、喉頭がんの症例から治療方法の実例を挙げながら、初心者向けから専門的な内容まで幅広く解説がありました。参加者からは「最近咳が止まらないので心配です」「耳が聞こえにくくて困っています」など身近な質問があり、先生から補聴器や咳の種類についての説明もありました。



第5回  
あなたの心臓、大丈夫ですか？

平成26年10月18日(土)、循環器内科診療科長・教授 福田昭宏先生が「あなたの心臓、大丈夫ですか？ 迫りくる心臓発作の予防と治療」と題して講義を行いました。「心臓のしくみ」「病気の成り立ち」「治療方法」について概要説明を行った後、病気の予防について重点的に解説がありました。また、「氷見ぶりの刺身」の味を例に挙げ、塩分摂取量を特に注意するよう説明が行われました。



第6回  
意外と知らない  
胆石のはなし  
(修了式)

平成26年11月15日(土)、病院長・一般消化器外科教授 齋藤人志先生が「意外と知らない胆石のはなし」胆石の最新治療について」と題し、「胆石がなぜできるのか」「胆石の症状や合併症、最新の治療法」など解りやすく解説しました。また病気になるらないためには、日頃からの生活習慣や、食生活について自己管理が必要なが説明されました。

その後修了式が行われ、齋藤病院長から「皆さんが病気の事や予防についての知識を高めることで健康維持への意識付けが図られ、健康寿命が延びることと思います。この高齢化社会でより健康で快適な生活を送るために役立ててください」と挨拶がありました。

# 石神先生の 診察室から

高齢医学科 診療科長

## 石神 慶一郎

KEIICHIRO  
ISHIGAMI

### 当

診療科は診療科長 石神慶一郎  
医師と助教 東川俊寛医師の2  
名体制で診療を行っています。

高齢医学科の診療は、多くの疾患を  
抱えている高齢者の特徴を十分に配慮



しながら患者さんを総合的に診察する  
科です。高齢者は症状もひとりひとり  
異なり、身体機能も一般成人と比べ大  
きく異なります。その中でも特に物忘  
れを含む認知症、高血圧症、糖尿病、  
脂質代謝異常、骨粗鬆症が多く、さら  
に脳血管疾患、心疾患を  
伴っていることも多くみら  
れます。また慢性的な肝疾  
患、腎疾患を伴っている場  
合や、身体的、精神機能に  
大きく影響しているとも考  
えられます。当診療科では、  
高齢者によくみられる疾患  
に幅広く対応するために、  
必要に応じ他の診療科とも  
連携し診療を行っています  
す。また、患者家族や地域  
の医療機関の先生方、介護  
施設やケアマネージャーの  
方々など多くの人でサポー  
トすることで高齢者ライフ  
は成り立っていることが多  
いです。介護の現状として  
は、老老介護や独居住まい

は、老老介護や独居住まい

が多くなっているため、介護サービ  
スの導入やリハビリへの参加など、ひ  
りひとりがより良い日常生活を送れる  
ようサポートするよう行っています。

若い方にはまだまだ実感が少ないと  
思いますが、高齢化による精神・身体  
機能の低下は誰もが避けては通れない  
ため、より良い高齢化ライフを送るた  
めに生活習慣病などを含めて自分自身  
の健康状態を把握しておくことが大切  
です。糖尿病、高血圧症、脂質代謝異  
常などは、脳梗塞、心筋梗塞などを引き  
起こす要因となっていますので次の項  
目に注意し、規則正しい健康的な毎日  
を送りましょう。

### \*認知症の予防

(認知症の予防と生活指導から抜粋)

- ①運動：天気のよい日は30分間歩  
きましょう(自分に合った適  
切な運動量が望ましい)
- ②バランスのとれた食事をしっか  
りと食べる
- ③生活習慣病を予防する
- ④毎日楽しい会話をする

### 石神慶一郎 ★ 略歴

#### 【略歴】

- ◎平成 6年 金沢医科大学卒業
- ◎平成 11年 金沢医科大学高齢医学科入局
- ◎平成 12年 恵寿鶴ヶ丘病院内科
- ◎平成 19年 加賀温泉病院内科
- ◎平成 20年 金沢医科大学氷見市民病院高齢医学科
- ◎平成 20年 金沢医科大学大学院 高齢医学科専攻
- ◎平成 24年 金沢医科大学大学院修了 医学博士

#### 【所属学会】

- ◎老年病学会
- ◎内科学会
- ◎高血圧学会
- ◎循環器学会



⑤年に一度「物忘れチェック」をする  
高齢になり、好きだったことや趣味を  
しなくなるなど認知症要注意です。物忘れ  
もサインのひとつですから、気になる症  
状がある方は早めに受診してください。

# 診療コラム

## 通所・訪問リハビリ

### 「自宅で暮らせる喜び」をサポート

#### 通所リハビリの紹介

当院では、在宅障害者の方を対象に、個別リハビリテーションやレクリエーション、入浴などを行う「通所リハビリテーションサービス」を行っています。



このサービスでは自宅療養中の方で、リハビリテーションが必要な方を対象に、その方にあつた個別リハビリテーションや利用者で行うレクリエーションを通して、生活機能の維持・改善を図り、少しでも充実した生活

が送れるようにと考えています。また一方で、ご家族の方々には介護から離れ、家事、通院、休養などをして頂く時間を提供します。

#### ●個別リハビリテーションとは？

理学療法士・作業療法士がその方にあつた運動機能改善プログラムを組んだ上で、適切に指導します。同時に、家庭での生活指導や家屋改修の相談、介護者への介助方法の指導など行い、利用者本人の意欲を高め、自立度の向上・介助量の軽減を目指します。

#### ●利用対象者

40歳以上の方で要介護状態の方。特に、外出に介助を要したり、日常生活に何らかの介助が必要な方や、認知症であったり、日中ベッド上での生活が多い方。

#### ●利用時間

月～土曜日  
午前8時30分～午後5時

#### ●利用料金

介護保険が適用となります。詳しくは担当のケアマネージャーとご相談ください。

#### 訪問リハビリテーション

訪問リハビリテーションとは、医師の指示のもとに、心身機能の低下や体力が低下された利用者さんが、自宅でいきいきとした生活が送れるように、専従の理学療法士や作業療法士が利用者さんの自宅へ訪問し、リハビリテーションを実施するサービスです。現在は理学療法士2名・作業療法士1名の合計3名で、氷見市内全域と高岡市の一部の利用者様の自宅に訪問しリハビリテーションを実施しています。



特色としては、病院のリハビリテーションで使用している器具などは自宅では使えませんが、機能訓練に加え、自宅環境を利用した更衣や排泄などの日常生活動作の練習を行っています。必要に応じて趣味活動や家事動作などの役割活動の援助なども実施しています。また、家族に対する介助方法の提案や住宅改修・福祉用具についてのアドバイス、利用者さんの身体能力に応じた運動指導なども必要に応じて行います。時にはケアマネージャーや他のサービス事業所と協力し自宅での生活をサポートしています。今後も、利用者さん・家族が安心して在宅生活を過ごせるように『自宅で暮らせる喜び』をサポートしていきたいと思えます。



北陸がんプロ 金沢医科大学氷見市民病院

## 市民公開講座

◆メインテーマ

# がん治療の 最前線

総合司会：今川 美千子  
(フリーアナウンサー)

開会挨拶：高島 茂樹  
金沢医科大学氷見市民病院  
最高経営責任者

◆プログラム

第1部 基調講演 13:40~14:50

座長：齋藤 人志 金沢医科大学氷見市民病院 病院長

## 『わたしの健康法』

講師：日本体育大学 教授

具志堅 幸司 ロサンゼルスオリンピック  
体操金メダリスト



第2部 特別講演 ～がん治療の最前線～ 15:00~16:30



座長：井口 晶晴 金沢医科大学氷見市民病院 呼吸器内科 科長・准教授

### I テーマ 前立腺がんの最前線 ～疫学から最先端医療まで～

講師：宮澤 克人 金沢医科大学 泌尿器科学 講座主任・教授



座長：松木 伸夫 金沢医科大学氷見市民病院 院長補佐 健康管理センター長・教授

### II テーマ 胃がん検診の有用性と体に優しい内視鏡と治療

講師：伊藤 透 金沢医科大学 消化器内視鏡学 講座主任・教授

入場無料

平成27年

日時 2月28日(土) 13:30~16:30 場所 氷見市いきいき元気館 3階ホール

お問合せ 金沢医科大学氷見市民病院 総務課 Tel.0766-74-1900(代)〈内線2022〉

インフルエンザ・感染性胃腸炎の流行が拡大しています。発熱などインフルエンザを疑い受診する際は受付で熱があることを申し出て下さい。

感染予防や感染拡大防止のため、できるだけ人ごみは避け、外出後の「手洗い・うがい」を心がけましょう。「せき」などの症状のある方は、周りの方へうつさないために、マスクを着用して下さい(咳エチケット)。

症状がある場合は無理をせず、休養しましょう。また、入院患者への面会も症状があればなるべく控えてください。

当院では、マスクの自動販売機を院内に3台設置しております。場所は、正面玄関・救急外来入口横・2階エスカレーター降り口です。マスク2枚入100円で販売しておりますので、感染予防のためにもご利用ください。

● インフルエンザ・感染性胃腸炎に注意  
マスクの自動販売機  
設置場所

病院からの  
お知らせ  
掲示板



## 平成26年度

### 原子力防災講習会

平成26年10月6日(月)・27日(月)・29日(水)に平成26年度 原子力防災講習会が富山県の主催により、原子力安全技術センターの職員数名が講師を務め、当院6階多目的ホールを主会場として、当院職員並びに富山県内の公的病院関係者等を対象に開催しました。

この講習会は、初期被ばく医療機関である当院に勤務している職員が役割等の基礎について学ぶことから、出来る限り多くの職員が受講出来るように同じ内容の講習を3回に渡り延べ440名が受講しました。

講習会終了後に受講者からは、「体験することで原子力に対する意識が高まった」、「実際に災害が起こった場合



の対処の仕方が理解できた」などの感想が多く寄せられ、この3回の講習会で当院の職員の約9割が受講したことにより、原発が身近でかかわりの大きさが再認識された様子でした。

## 第6回

### 広げようブルーサークルの輪

inひみ

平成26年11月2日(日)午後1時30分から6階多目的ホールにおいて「広げようブルーサークルの輪 in 氷見」と題し市民公開講座が開催されました。

11月14日は世界保健機関(WHO)が定めた「世界糖尿病デー」です。当日は世界各地で糖尿病に関する様々なイベントが開催されています。

当院でも、増え続ける糖尿病に関して一般市民に予防と治療についての正しい知識と理解を深めてもらうため、講演会を毎年開催しています。これまでは当院の内分泌・代謝科と糖尿病委員会が中心となり開催してきましたが、昨年からは氷見市医師会と共同で開催し、約80名の参加がありました。今回は講師に昭和大学藤が丘病院客員教授、食事療法サポーターセンター理事の山浦照國氏をお迎えし、「糖尿病から腎臓を守るための食事療法」と題して講演が行われました。出浦先生

は腎臓病の専門医であり、特に食事療法の重要性を中心とした講演や講座を全国各地で行われています。

講演では、「生活習慣病は、患者自身がきちんとコントロールすれば予防できる病気」であり、患者自身も医者に頼りきりにならずに「自分で勉強することが必要」との解説がありました。参加者も、患者と医師が協同で治療、予防していくことの重要性を感じている様子でした。

また、看護師による血圧測定や健康相談、管理栄養士による減塩食、低たんぱく食品等のレシピ紹介や試食が行われました。

## クリスマスコンサート開催

平成26年12月20日(土)1階外来待合室において、りんごステーションメンバー(20歳代看護師が組織しているサークル)が企画、運営したクリスマスコンサートが開催されました。今回は「氷見イタセンパラ吹奏楽団」の団員12名がクラリネットやトランペット



などで息の合った演奏をし、入院患者やその家族の方など約80名を楽しませてくれました。「サンタクロースがやってくる」や「星に願いを」など6曲を演奏されました。コンサートの最後に、りんごステーションメンバー13名が「ふるさと」を合唱し、参加されていた患者さんも一緒に口ずさんでいました。患者さんからは「入院中でも、このようにクリスマスを感ずることができて楽しかった」と感想が聞かれました。りんごステーションでは、今後患者さんの心身を癒し、早く元気になってもらえるようなイベントを開催したいと思っております。



## 病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに務めます。

## 患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平にうけることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報は厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかがご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にして頂くため、セカンドオピニオンを受けることができます。

## 患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。

## まちかど情報

### 氷見イタセン。パラ 吹奏楽団

氷見市を中心に活動している吹奏楽バンドです。始まりは氷見高校吹奏楽部のOBが集まり結成されましたが、現在は楽器が好きな方々が仕事や育児の合間に練習を重ね、施設や病院などでボランティア活動されています。当院でも毎年クリスマスコンサートで演奏してもらい、入院患者さんに楽しんでもらっています。楽団のリズミカルな演奏は聞く人の心を癒してくれまので、毎年開催されているジョイントコンサートで楽しんでみてはいかがでしょうか。



## エコロジーガーデン

ecology garden

サンスベリアはリュウゼツラン科(リュウケツジュ科)サンスベリア属で、常緑多年性多肉植物です。原産地はアフリカ、南アジアの乾燥地帯で別名はサンセベリア、チトセラン(千歳蘭)、トラノオ(虎の尾)と言われることもあります。とがった丈夫で強い葉からはマイナスイオンを大量に発生させ、空気清浄剤の役割をするためオフィスやリビングに良く飾られています。また、玄関に置くと邪気を家に入れない力があると言われ、悲しいことがあった時やイライラした時に両手で葉を撫でると心にたまったネガティブな感情までもが浄化され、ゆったりと安らいだ気持ちになれるそうです。皆さんも悲しい時はサンスベリアの葉を撫でて、不滅の元気を取り戻してください。

### サンスベリア

(ウコギ科 フカノキ属)

花言葉 永久・不滅・達成



### スポンサー企業

- (有)アカシア商会 ●サカキ産業株式会社 ●たんぼ薬局 氷見店 ●株式会社 つばめ交通タクシー ●ニッショク株式会社 ●日本海綿業株式会社 ●株式会社 ビー・エム・エル ●氷見伏木信用金庫 ●ファーマライズ株式会社 ●北陸ココ・コーラボトリング株式会社 ●北陸総合警備保障株式会社 高岡支社 ●株式会社山下設計 ●米沢電気工事株式会社 ●菱機工業株式会社 ●株式会社ワールドシンコー

## 表紙について

十二町瀧水郷公園は「オオオニバス」で有名ですが、冬は越冬のため飛来するオオハクチョウとコハクチョウが羽を休める地として、写真家から人気の場です。今年もたくさんのハクチョウが飛来し、雪の降る静かな朝、湖面で優雅にたずんでいます。

## 編集後記

暦の上では立春ですが、まだまだ寒さは厳しく春の陽気が大変待ち遠しく感じられます。さて、2015年は待望の北陸新幹線が開業します。もう待ちきれない!という方もたくさんおられるのではないでしょうか?

ところで、昨年10月に富山湾が「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟したことをご存じですか? 国内では松島湾(日本三景の一つ)に続き2か所目で、日本海側では初めてとなります。この時季の富山湾越しに広がる立山連峰の大パノラマは、私達の心を魅了してやみません。北陸新幹線の開業で、このすばらしい景色を全国の方々にも届けられたらと思います。

今年も広報委員会では、広報誌「かけし」を通して皆様に様々な情報をお届けしたいと考えております。本年もどうぞよろしくお願致します。

かけし冬号編集委員 渡辺 恵美

### ■広報誌「かけし氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけし」となることを願って命名されました。